

School Library

2021. 9. 15発行

月号



行事の多い2学期がはじまりました。とはいっても通常通りのものではなく、延期や規模縮小といったなかでなんとか行事を行っていかうとする様子を見て、様々な思いを感じていることだと思います。でも、不満や不安ばかりではなく、小さな楽しみや喜びを見つけて少しでも明るい気持ちを持ってほしいです。気持ちを落ち着けるには読書は最適です。深呼吸して、数分でも本を読むといいでしょう。もちろん自分の好きな本で！でも、どんな本がいいか迷ったら図書館に来てくださいね。

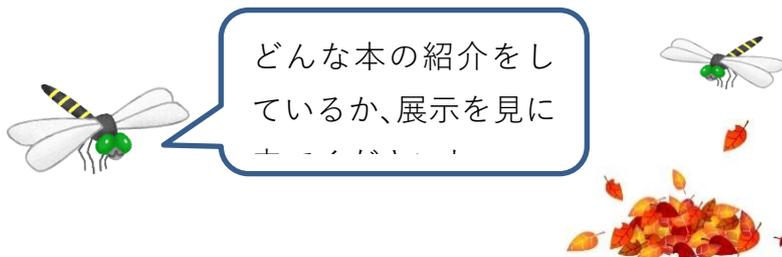
図書館では、前期図書委員が作成したPOPでおすすめの本を紹介しています。是非どんな本が紹介されているのか、見てみてください。

図書委員作成おすすめPOP

7月の委員会で阿佐谷図書館の司書の方々をお招きして、POP作成会を行いました。



作成したPOP



どんな本の紹介をしているか、展示を見に



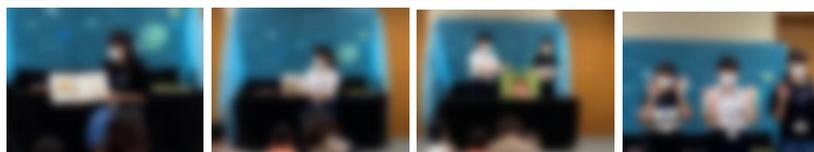
聞かせや本舗がお話会をしまし



今年はコロナ禍のため人数を減らし、聞かせや本舗メンバーも前期後期と募集をする予定です。前期は3年生のみの募集でした。

今回は、15分の小さなお話会を2回しました。家族ごとにスペースを分け、小さな島がいくつも浮かぶような会場です。メンバーの3人は、マスクをしながらも笑顔と楽しい話を精一杯届けてくれました。

“聞かせや本舗”は、リピートする生徒の多いボランティア企画です。ぜひ1・2年生は後期の募集で参加してください。



秋の夜長にミステリーを



「すべてがFになる」 森博嗣 B913 も

14歳のとき両親殺害の罪に問われ、外界との交流を拒んで孤島の研究施設に閉じこもった天才工学博士、真賀田四季。N大学工学部助教授 犀川創平は、教え子の西之園萌絵とともに島を訪ね、一週間も外部との交信を断っていた博士の部屋に入ろうとした。その瞬間、出てきたのはウェディングドレスを着た女の死体。死体は四季、彼女なのか。そして、もう一つの謎は部屋に残されていたコンピュータのディスプレイに記されていたのは「すべてがFになる」という意味不明の言葉だった。

密室殺人をパソコンに残されたメッセージから挑む理系ミステリー。



「青の炎」 貴志祐介 B913 き

榎森秀一は、湘南の高校に通う十七歳。女手一つで家計を担う母と素直で明るい妹との三人暮らし。その平和な家庭の一家団欒を踏みにじる闖入者が現れた。母が十年前、再婚しすぐに別れた男、曾根だった。曾根は秀一の家に住居座って傍若無人に振る舞い、母の体のみならず妹にまで手を出そうとしていた。警察も法律も家族の幸せを取り返してはくれないことを知った秀一は決意する。自らの手で曾根を葬り去ることを…。完全犯罪に挑む少年の孤独な戦い。

きっとこの主人公に引き付けられると思える倒叙ミステリー。



「小暮写真館」 宮部みゆき 913 み

あなたの写真(ひみつ)、解き明かします。築三十三年、木造二階建て。小暮写真館は、臨死状態の商店街にひっそりと佇んでいた。都立三雲高校に通う花菱英一は、両親の趣味により、この「写真館」に住むことになる。そして、弟をふくめた家族四人での暮らしが始まった矢先、ひとりの女子高生が持ち込んだ不思議な写真を巡る謎に、英一は関わることになり…。写真に秘められた物語を解き明かす、心温まる現代ミステリー。



「冷たい校舎の時は止まる 上下」 辻村深月 B913 つ1・2

雪降るある日、いつも通りに登校した8人の高校生。センター試験まであと1ヵ月。いつも通りの日常を迎えるはずだった。無人の校舎に閉じ込められるまでは。開かない扉、無人の教室、5時53分で止まった時計。凍りつく校舎の中、2ヵ月前の学園祭の最に死んだ同級生のことを思い出す。でもその顔と名前がわからない。どうして忘れてしまったんだろう――。

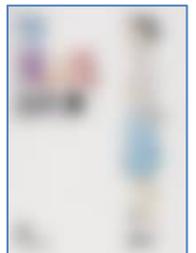
辻村深月さんのデビュー作です。



「空飛ぶ馬」 北村薫 B913 き

人の死なないミステリー、“日常の謎”を楽しみたいならこちら。

女子大生のく私>と落語家円紫師匠の名コンビが、爽快な論理展開の妙で日常の中に潜む違和感を解決する心暖まる物語。5作の短編集なので、好きなものから読んでみては？



米澤穂信さんの「氷菓」が好きな人は、是非読んでみてください。